

第6回青森ねぶた祭検討特別委員会会議概要

日 時 平成17年12月12日（月） 13時30分～15時00分

場 所 ラ・プラス青い森 4F ラ・メール

出席者 佐藤副委員長、武田委員、對馬委員、千葉委員、柳谷委員、奈良委員、澤田委員、

欠席者 蝦名委員長、若井委員、勝又委員、太田委員、采田委員

蝦名委員長が急遽出張のため、佐藤副委員長を座長とし会議を進行した。

○前回議事要旨の確認について

事務局より前回議事概要を説明し、内容確認をした。

○会議概要（ねぶた祭健全化について）

1. 健全化対策について

- ・事業所への販売自粛要請後のチェックは行っているのか？
- ・大型店はキャンペーン時などに衣装販売チェックが出来ているが、小型店舗、ネット販売まではチェックできていない状態。飲料販売はお願いのみで捕捉は出来ていないが、現場で見る限り瓶類の持ち込みは少なくなっている様を感じる。
- ・5年前の健全化元年は強圧的という一部の批判もあったが、2年目以降は批判もなく警備改革が良かったと言う評価もある。
- ・健全化対策として、効果があり一応の評価は受けているが、今のかたちを継続して良いのか。
- ・ボランティアが減っている状態で集めるのが非常に厳しい。
- ・ガードマンや監視カメラは継続していかなくてはならない。団体からの支援隊は効果があるので継続して欲しいが、1団体から4名という現状は団体によっては非常に厳しいのであり方を考えなければならない。企業にお願いしているボランティアも強制状態である。
- ・祭への危機感は団体と市民の間に温度差がある。
- ・今は警備が厳しすぎて、昔の良さがなくなったと言う人もいる。ある程度市民に呼びかけて共通認識を持つことも必要ではないか。
- ・ハネトの逆流が目立ち、見苦しい。しかも端ではなく真ん中を歩いている。警備で約束事があり徹底しているのか。
- ・ハネトは決まった場所しか出入りできない状態。しゃがんで待たせるにしても邪魔な場所もあり、場所によってはケースバイケースで、徹底はされていない。
- ・現状は抜け道がなく難しいかもしれないが、ハネトの逆流は歩道に上げるのが基本。ガードマンはただ流しているのが多いので、基本的な役割をガードマンに教えるべき。
- ・逆流だけではなく、参加したいねぶたを待っているハネトもいる。

2. カラスハネトについて

- ・警察署はカラス族の身元（暴走族）を把握しているので、最初から参加できないようにすることが出来ないか。
- ・各団体もカラス予備軍を入れないよう努力しているが、今年はカラス予備軍がねぶた

愛好会にかなり入ってしまった。どのように対策すればいいのか苦慮している。

- ・カラスハネトは悪さをしないのか。
- ・衣装で把握できるので、警察・ボランティア・支援隊が暴れる前に押さえている状態。これに労力を多大に取られている。
- ・一時期はねぶた前に暴走行為でリーダーを捕まえたが、きつすぎたので逆に反発してきた。
- ・ねぶたに限らず何にでも反発する年齢であり、パフォーマンスを楽しんでいる愉快犯的なものだろう。
- ・教育現場での啓蒙活動や町内ねぶたを奨励し、増加しているのも良い傾向で効果が出てきているのではないか。
- ・当初はファッション性で増えてきたが、今は違ってきた。
- ・最近では運行現場でカラスハネトを見ない。
- ・今年もあったが、ワイドショーの取り上げ方は過剰なので、抗議すべきだ。
- ・実行委員会では取材要請に対して厳重に中味をチェックし、ワイドショー的なものは取材拒否しているが、隠れて撮っている。
- ・企画段階で煽るような内容であれば実行委員会として、申し入れても良いのではないか。
- ・実際現場に取材にきているのは孫請け業者だ。
- ・ひどいのは出発前の打合せを隠し撮りしていたのもあった。
- ・実行委員等の系列局のマスコミを經由して働きかけてはどうか。
- ・少なくとも暴走族が沢山映っている昔のフィルムを使用禁止にする希望は申し入れても良いのではないか。
- ・ある程度の反発はいつの時代・社会でもあるが、何かあったときは中途半端ではなく、逮捕を含めて徹底的に取り締まるべき。
- ・マスコミへの抗議は系列局経由もよいが最終的にはキー局の代表者に直接抗議したら良いと思う。
- ・阿波踊りも一時期同様のことがあったが、一斉にマスコミに取り上げないと言う申し合わせをしたら、2、3年後いなくなったと聞いている。
- ・マスコミに対して事前に申し入れる時は抗議だけでなく、市民や関係者の祭りに対する思いを伝えるべき。
- ・ハネトに自由になれるねぶたと一概に比較できないが、YOSAKOIソーランやだんじり祭りは団体内で上手く仕切ってやっている。ねぶた祭も昔はだんじりのように腕力で支配していたときがあった。
- ・言い方は悪いが、全く騒ぎがなくなっても寂しいのかもしれない。少し騒ぎがある方が活発な感じもする。
- ・カラスのリーダーと話し合うことは出来ないか。
- ・以前試みた時は、卒業者は来るが現役は来なかった。
- ・カラスハネトは減少しているが、運行形態を吹き流しに戻すのはまだ早い。

3. 教育現場への啓蒙活動について

- ・小学校へ啓蒙活動していて効果は出ているのか？
- ・活動をしていて、子供に跳ね方や由来を教えていないのに気がついた。学校に教える

機会を設けて欲しいとお願いしている

- ・青森市として学校のカリキュラムに盛り込めないか？
- ・教育委員会に呼びかけているが、学校によって差がある。活発なところはねぶた集会があって、学校の他に地域ねぶたに参加したりしている。
- ・音楽の授業でねぶた囃子をやっている学校もあり各学校で地域差・学校差があるが、全く携わっていない学校はないと思う。
- ・学校はやりたいが、太鼓などの道具を揃えたり、子供達に道具を買わせるのも大変なので、一概に強制は出来ない
- ・5年前より学校のねぶたへの取り組みは増えている。さらにねぶたの教科書を作ってカリキュラムになれば理想だが、学校からも自発的なアプローチがあってもいいのではないか。
- ・学校の先生が指導者となってくれるのであれば良いが、仕事をしながら講師として授業時間にあわせて毎週行くのは困難だ。
- ・青森はねぶたの他に版画や三内丸山や郷土館など教材が豊富だし、週休2日制になったこともあり、今の小学生は余裕がない。
- ・ねぶたの制作現場にグループで訪ねてくる小学生はこの5年間は異常に増えて困っている状態。

4. その他

- ・吹き流しの時と違い、今の運行形態だと役員団が邪魔にされているような感じがする。
- ・ねぶたは静と動があり、ねぶただけがあればいい訳ではない。高張りからねぶたまでの祭りとしての趣があるべきだ。見る側にも強弱をつけて見せたい。
- ・昔は運行に芸者さんが参加して情緒があった。ねぶた師が役員団に参加したこともあった。
- ・昔は事業所でねぶた時間があり、ねぶた期間中は早く帰ったり、7日が休みだった。今では難しいかもしれないが、青森市民に深く根付いている祭り、青森の慣習、地域の特性として復活しても良いのではないか。
- ・ドイツのハンブルグは湖が凍るとすべて休みになるなど、地域の特性があった。反発はあるだろうが、ねぶたは青森の根底にある大事なものなので、各団体のサポートを得ながら働きかけても良いのではないか。
- ・今年は運行終了後、コース内で囃子の進行と戻りが交じった。来年は統一すべき。

5. まとめ

- ・今の健全化体制は効果が出ているので、継続していく。
- ・キー局のカラスハネトの取り上げ方は過剰なので、実行委員会として地元テレビ局を通じて事前に申し入れする。

○次回委員会開催について

案件 ねぶた祭保存会・実行委員会のあり方について

日時 平成18年1月24日(火) 午後3時～5時

以上